

事業名	少年事業 子ども・初心者のための囲碁教室				
予算	歳入予算	歳入実績	歳出予算	歳出実績	
令和2年度			報償費75,000 需用費30,000 <small>※当該事業に関連する項目のみ</small>	報償費54,000	
令和3年度			報償費75,000 需用費30,000 <small>※当該事業に関連する項目のみ</small>	報償費54,000	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針（4）生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	囲碁の楽しさを知り、囲碁に親しむ。 また、対局を通じて人との関わりやルールを学ぶ機会とする。	持続可能な 開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	年間6回（10月～11月の日曜日開催）			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	小学生以上の囲碁初心者	参加者数	延62人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	広報こまえ・市教育委員会ホームページ・市内掲示板・市公式SNS（Twitter、Facebook）への掲載・公共施設でのチラシの配布による周知を行った。令和2年度は参加者の過半数を70歳以上の方が占めていたが、令和3年度は小学生が半数を占めるなど、比較的若い世代に参加していただいた。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	参加者10名程度に対し、講師が3名であったため、参加者同士で実際に対局する際にも個別に対応することができていた。講座室（定員40名）で実施したため、換気も十分にできたが、対局時の個別対応の際には距離が少し近くなる場面もあった。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	アンケートの結果、「今後も囲碁を続けていきたい」が9割であったことから、満足度が高いことが伺えた。また、回答者全員が公民館の講座に参加したのは囲碁教室が初めてという回答であったことから、ニーズがあって公民館に来ていただけたのではないかと考えられる。		公民館 A	公運審 A
全体 A					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	小学生以上の初心者を対象としたため、参加者は小学生から70歳以上と幅広く、参加者同士の対局練習もあったため、世代を越えての交流の機会とすることもできた。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
＜発展性＞ 参加者の学びの意欲を促進できたか	講師である日本棋院狛江支部は普段から中央公民館で活動をされている団体であり、囲碁を継続しやすい環境であると言える。参加者のアンケートでは「今後も囲碁を続けていきたい」との回答が9割であったため、学びの意欲を促進できたといえる。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	▼子どもの参加が増加傾向にあるが、引続き、20歳未満の若い世代が集まるよう周知の徹底をする。 ▼他の公民館の活動団体を紹介したり、「公民館だより」を配付する等、公民館をより知ってもらうきっかけを提供し、参加者の学びをさらに促進する。 ▼社会教育の観点から、囲碁の打ち方やルールといった技術面だけでなく、囲碁の歴史や相手への敬意等の教養面も内容に盛り込む。				
総合評価	▼前年度は参加者の過半数が70歳以上を占めていたが、インターネットの申込受付を導入したことにより、今年度は比較的若い世代に参加していただいた。アンケートの結果からもインターネットで申し込みができて良かったという意見が多数であったので、インターネットの申込受付は継続していただきたい。 ▼アンケートの結果、参加者は全員、ここ1年で公民館講座に参加したのは「囲碁教室が初めて」の回答であった。潜在的なニーズを把握するためにも、「囲碁以外で興味のある事業」についても来年度のアンケートでは調査していただきたい。 ▼「囲碁教室」に限った話ではないが、「少年事業」を前提としているため、対象者の年齢幅については、改めて検討していただきたい。				